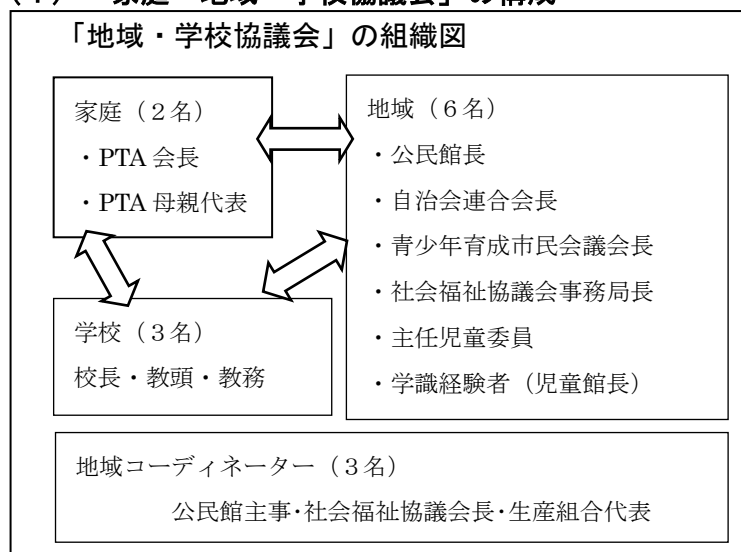


1 家庭・地域・学校協議会の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 開催回数 年間3回開催
- 開催日程
 - 6月12日 (中学校と合同開催)
 - 11月1日
 - 3月2日 (中止)
- 協議内容
 - ・地域の人材活用や体験活動の充実に関すること
 - ・家庭、地域、学校の連携に関すること
 - ・中学校区教育の推進に関すること
 - ・児童の安全確保に関すること
 - ・学校評価に関すること

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・地域との関わりを深め、地域を見つめ、地域の素晴らしさに気付き、地域を愛する心を育む。
- ・児童の気付きや意見、発案を生かした学習活動の展開を図り、学習の成果を地域に向けて発信することを通して、主体的に地域に関わろうとする態度を育てる。

(2) 活動の実際

①地域行事への参加を通して (6年生)

総合的な学習の時間に「社南に生きる」をテーマに、地域活性化について考える取組を行った。昨年度から継続したテーマで、昨年度は地域活性化に取り組む地域の方々から話を聞く学習を行った。今年度は、昨年度の学習をもとに自分たちも地域活性化に取り組みたいと考え、地域行事に参加して自分たちのアイデアを生かした活動を行うことにした。

「納涼祭」「災害キャンプ」「杉谷古道復元プロジェクト」「至民マルシェ」の4つの行事に分かれ、行事ごとにその行事を盛り上げるアイデアを練り合い、準備を進めていった。例えば「納涼祭」では、楽しめる出し物を考えてステージで披露したり、社南音頭への参加者を増やすために踊りの練習をして本番でも踊ったり、会場美化のためにごみの分別表示を作成したり、当日参加者の自転車の整頓を呼びかけたり、積極的に参加する児童の姿が見られた。また、「至民マルシェ」では、社南地区の人が集まる行事を盛り上げたいと考え、フリーマーケットに自分たちも出店することにし、アイデアを出し合って準備を進めていった。商品を手作りしたり、看板を作製したり、当日は店員として地域の人に積極的に呼びかけたりする姿が見られた。他の行事についても、ただ参加するのではなく、自分たちの企画を生かして参加の仕方を工夫し、地域の一員として地域を盛り上げようとする意識が高まった。

また、6年生は、活動した行事ごとに概要を発表する資料を作成し、地区文化祭に展示したり、校内に掲示したりして、その成果を広めることにも取り組んだ。



ステージでダンス披露



ごみの分別コーナー



自転車の整頓見守り

②地域の施設訪問の企画と実践を通して（4年生）

総合的な学習の時間に「人にやさしいまちづくり」をテーマに学習を展開した。まず、地域の社会福祉協議会等の協力を得て、さまざまな福祉に関する体験活動（アイマスク体験、高齢者疑似体験、車椅子体験、パラアスリートの講演会）を行った。児童は、その体験をもとに、地域の高齢者施設にお年寄りを訪ねる計画を立て、お年寄りと楽しい時間を過ごそうと話し合い、準備を進めた。いくつかの施設を学級ごとに訪問し、積極的にお年寄りとおふれ合う児童の姿が見られた。

高齢者施設訪問の後には、さらに福祉について知りたいとの声に、福祉関連の図書を集め、各自がテーマを決めて調べ学習を行った。多岐にわたる福祉の現状について理解を深めていた。

最後に、4年生は、今回の取組をまとめて3年生に発表した。掲示資料などを作成して分かりやすく伝える工夫をしており、来年度4年生になって福祉をテーマに総合的な学習を行う予定の3年生に、見通しをもたせ、意欲付けをすることができた。



高齢者疑似体験



車椅子バスケ体験



高齢者施設訪問

（3）特に工夫した事項

- ・できるだけ地域の中に出かけ、地域の方と直接ふれ合う中で学習が進められるように活動内容や場の設定を工夫した。
- ・児童の積極的な発案を促すきっかけとなるよう、体験活動の充実を図った。

（4）地域コーディネーターの活動概要

総合的な学習の時間で、地域と関わる体験や調査活動、学習会を実施する上で、活動のねらいを理解してもらい、ねらいに合った活動場所やゲストティーチャーを紹介してもらったり、ゲストティーチャーとの日程調整をしてもらったり、実際に活動に加わって児童をサポートしてもらったりした。地域学習全般にわたって学校の担当者（教員）の相談にのってもらい、協力していただいた。

6年生の取組では、地域行事のリーダーとなっている方を紹介してもらい、学校に来て、児童にアドバイスをいただく学習会の日程調整をお願いした。大変多くの人に関わってもらうので調整が難しく、地域コーディネーターの協力が助けられた。

4年生の取組では、アイマスクや車椅子、高齢者疑似体験等の体験を行う際に社会福祉協議会から多数参加していただき、児童の活動をサポートしてもらった。体験活動の計画実施のため、担当者が繰り返し地域コーディネーターに連絡をとり、多くのアドバイスをもらったり、協力者を集めてもらったりした。

(5) 成果と課題

昨年度末に挙げた課題は、取組の広げ方や継続性であった。6年生は、「社南に生きる」を2年間通したテーマとして設定し、1年目に地域で活躍する人々とのふれ合いを通して学んだことを、2年目の自分たちが企画する取組に生かし、自分たちができる地域活性化について考えることができた。地域の人々からは、小学生の学びに協力することで多くの刺激を受けたと感想をいただいた。

これまでも、本校は、学校全体で地域学習に取り組んでおり、各学年が地域と連携した取組を発達段階に応じた形で行ってきた。取組を通して、特に高学年は、地域の中で自分たちに何ができるか、何をしたいか考え、積極的に地域に向き合う姿勢を学ぶことができたと思う。児童の発案にもとづいた活動は、まだまだつたないが、大人にはない発想があり、友達とともに活動する楽しさが感じられた。今後も社南地区に生きる一人として、積極的に地域に関わり、仲間とともに盛り上げていこうとする気概をもち続けてほしい。